

私たち診療放射線技師は、がんと疾病の
早期発見のために、胸部・胃部X線検査の
精度向上にがっちりと取り組んでいます。

(診療放射線技師は協会全体で69名在職しています)

胸部検診車21台 / 胃部検診車19台

超音波検診車2台 / 骨密度測定車3台

胸部・胃部兼用検診車2台

マンモグラフィ検診車2台 / 子宮がん検診車2台

合計51台の検診車が新潟県内をくまなく巡回しています。

写真は新潟ウェルネス駐車場にて、バリウムを手を持つ第一健診部の診療放射線技師たち



医学協会の県内各施設で活躍中の検診車は合計51台。
巡回健診と集合健診で各地区の検診班は連日新潟県内の企業
や健診会場へ赴き、健康診断を行っています。

現在、医学協会の日本消化器がん検診学会認定胃がん検診
専門技師は40名おり、日々、「お客様の健康を守る」という使
命を胸に検査技術の向上を目指しています。

がんと疾病の早期発見のために、 診療放射線技師が取り組む 胸部・胃部X線検査の精度向上と 評価の取得について

医学協会では検査精度を向上させる様々な取り組みを行っています。
その一つとして全国労働衛生団体連合会(以下、全衛連)の会員となっており、
私たち診療放射線技師も胸部・胃部X線検査の精度向上に努めています。



第二健診部
診療放射線技師
星野 裕文

星野技師に日々の健診
業務についての質問?

①お客様に対する接遇についての考え

多くの方が受診されるため、精度以外にもスムーズな検査が求められます。より伝わりやすく、そして簡潔な声掛けをすることで多くの方々をお待たせせずに気持ちよく検査を受けてもらえるようにしています。

③新人技師に伝えたいこと

新人の方はまず撮影技術を磨いていくことが最初の目標になります。しかし、『良い技師』になるためには常に相手の立場に立ち、自分の言葉が相手にどのように捉えられるのかを常に考え、日々の生活や撮影以外の業務にも思いやりのある行動をすることがとても大切だと思います。

②胃のレントゲン撮影が苦手なお客様への対応

動くのが大変だという方は撮影室内に入り、マイクではなく直接顔と顔を合わせて指示をお伝えします。安心して検査を受けられるように、受診者自身のペースで動けるよう常に配慮しています。

④お客様からの印象的なできごと

撮影後に『また来年もあなたに検査して欲しいわ』と声をかけられたことがとても嬉しく印象に残っています。これからも受診者に感謝される技師になれるよう研鑽に励みたいと思います。

◆私たち診療放射線技師が精度評価への取り組みとして実施していること

全国労働衛生団体連合会の『総合精度管理事業』の精度評価に毎年参加しています。

全衛連とは、検診技術・保健指導技術等の向上を図り、勤労者およびその家族の健康の保持・増進、国民保健の向上発展に寄与することを目的に昭和44年(1969年)10月に設立されました。

現在において、会員機関の実施する定期健診、人間ドック等は年間延べ4,600万人の方々に提供され、日本国内における職域健診・地域健診等の分野で大きな役割を担っている組織となっています。

このような全衛連の活動の一つに、会員機関が実施する健診が高品質であることを保証するため、各機関における検査技術を審査・評価する「総合精度管理事業」を実施しています。

医学協会における胸部X線検査では、この精度評価を毎年受けています。

◆診療放射線技師がチーム一丸となり、他部署の協力を得て取得のための条件をクリア

全衛連の精度評価は、医学協会全体の取り組みや活動も含めて評価される内容で、厳しい評価基準です。

全衛連の評価は、胸部X線撮影のさまざまな精度管理の実施状況を総合的に判断します。統計情報、撮影条件、線量測定、画質評価、読影モニタ品質管理、読影管理、教育管理など、その項目は多岐にわたっています。

これらの調査はさまざまな部署の協力のもと成り立っているものです。画像の良し悪しだけではなく、部署同士の連携や医学協会全体としての取り組みや活動が評価される内容となっています。

胸部・胃部X線検査における成績の判定はA判定からD判定の4段階評価となります。100点満点中85点以上でA(優)判定、70点以上でB(良)判定、60点以上でC(可)判定、60点未満でD(不可)判定となっています。

画像全体の鮮明さ、病変を容易に視認しやすい水準かどうか、そして多岐にわたる精度管理の適切さなどを点数化され、評価されます。

◆これまでの努力の結果、令和3年度(2021年)の胸部X線検査画像は、全国からの1,080枚の画像の中から特に推奨する画像に選定され、胃部X線検査精度管理の結果は100点満点の評価

毎年の精度評価では、すべてが「A判定」で90点を超える高い評価を得ています。5項目では最高評価の『優』の判定を取得しました。

医学協会では毎年この精度評価を受けています。そのすべてがA判定となっており、直近5年程度に至っては90点を超える高い評価を得ています。

特に、令和3年度(2021年)の胸部X線検査に関しては、全国で検査精度管理調査に参加した1,080枚の画像の中から、特に推奨する画像10枚の中の1枚に選定されました。

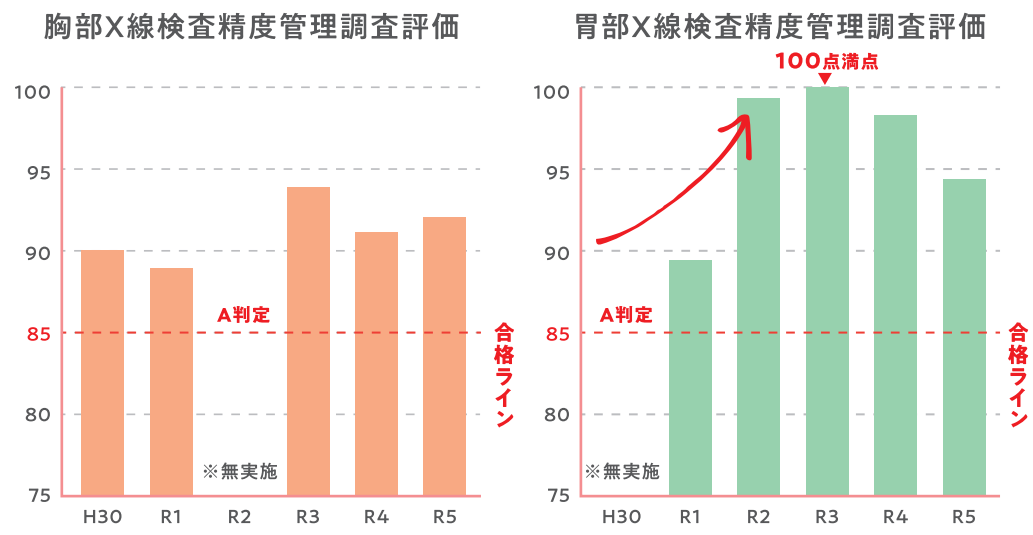
この選定された推奨画像はCDに収載され、全国の全衛連会員施設へ配布されます。全国の会員施設はこの画像を参考に次年度以降の精度管理へ取り組むこととなります。このような結果は画像の撮影者・選定者、そして医学協会全体としての取り組みや部署間の連携が評価されたものだと思います。

新潟県内の他機関と比較した場合でも当会の精度評価は非常に高いものとなっています。令和4年度の新潟県内においては、会員・非会員を含め9団体の参加がありました。

総合精度管理事業には胸部・胃部X線検査の他に労働衛生検査、臨床検査、腹部超音波検査があります。医学協会ではこの5つの項目においてすべて最高評価である『優』の判定を取得しています。

令和4年度(2022年)に新潟県内で参加した9団体のうち、当会はずべての項目において最高評価を取得した数少ない施設です。

培ってきた技術の高さは数値だけでは測れないものがあると思います。しかし、客観的な数値で比較することにより、検査技術の精度が他機関よりも秀でていることを改めて認識することが出来ます。

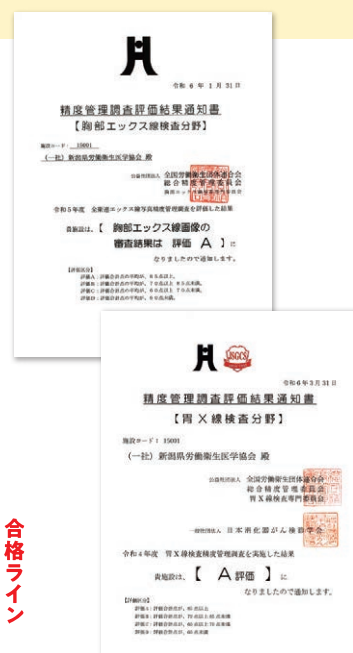
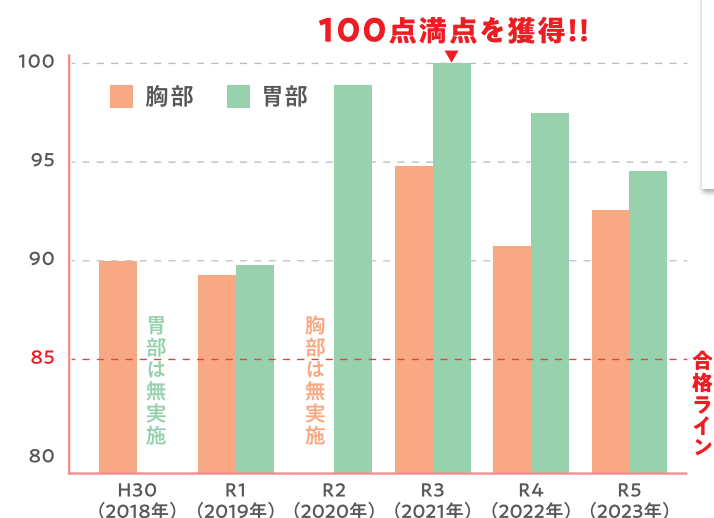


	H30	R1	R2	R3	R4	R5
胸部	90	89.3		94.7	91	92
胃部		89.75	98.3	100	97.5	94.4
合格ライン	85	85	85	85	85	85

令和4年度の新潟県内の主な好成績団体

参加団体	精度管理評価結果				
	労働衛生	臨床検査	胸部X線	腹部超音波	胃部X線
医学協会	優	優	優	優	優
団体A	優	優	優	優	優
団体B	優	優	優	優	良
団体C	優	優	優	-	優

胸部・胃部X線検査精度管理調査における高い評価



◆X線検査に関するさまざまな取り組みと認定資格の取得・維持を目指すべく実施しているサポート体制などについて実施していること

診療放射線技師が各センターごとに勉強会と症例検討会を実施し、医師を含めた全員で共有するシステムで向上を図る。

このように検査精度の維持のため、X線精度検査に関して私たちは様々な取り組みを行っています。

毎月一回、診療放射線技師が各センター単位で集まり勉強会を行い、特に最近では各センターが、胃部X線検査の症例検討会を同時開催し、病変症例を共有することで胃部X線検査の精度向上に重点を置いて取り組んでいます。

さらに、日々の業務の中で気になる症例や、知識として重要な事柄を社内グループチャットにてリアルタイムで共有し、これらの症例を当会の読影医にも共有しています。技師と読影医との間で情報共有を行うことができ、読影医

の意見を参考に読影スキルの向上を図っています。

その結果、病変・異常を早期発見できる画像を撮影することが出来ています。

また、当会の診療放射線技師は撮影技術向上のため、胃がん検診専門技師認定資格の取得・維持を目指しています。

この資格は一定以上の実務経験や学会への参加、認定試験の合格などの日本消化器がん検診学会が定める要件をすべてクリアすることで認定されるものとなっています。

資格取得を目指して必要な技術や知識を日々の業務の中で学んでおり、認定試験へのサポートもしっかりと行っています。

市区町村が行うがん検診では認定資格が必須となっていることが多く、当会の診療放射線技師はこの認定資格の取得を目指しています。

その他にも医学協会全体で職種別研修会を開催したりなど、すべての職種において日々検査技術の向上を目指しています。

私たち放射線技師は、今までの結果に満足することなく常に技術の研鑽に励み、病気の早期発見に努め、今後もお客様の健康向上をサポートできる精度の高い撮影を行っていきたいと思っています。

第一健診部での胃部X線検査の症例検討会と勉強会の様子



日々の業務の中で気になる症例や知識として重要な事柄をリアルタイムで共有し、問題点などを話し合います。疾病症例を共有し、胃部X線検査の精度向上と読影スキルの向上を図っています。それらの蓄積が認定資格の取得へとつながっています。